

8-4-19 海岸・海洋専門委員会

1. 主な活動の記録

(1) 委員会の開催

海洋分野の新たな市場開拓を主な目的として沿岸域の総合的な管理等に関わる情報収集、情報交換等の委員会を9回(4月、5月、6月、7月、8月、9月、10月、11月、1月)開催した。なお、5月の委員会では、東京大学大学院工学系研究科社会基盤学専攻の佐藤慎司教授を訪問し「美しく生き生きとした海岸づくり」のあり方や方向性などについて意見交換を行った。

(2) 青森県種差海岸の現地視察の実施

グリーンインフラとしての海岸の代表例である青森県種差海岸の地形的、地質的特徴等を視察し、歴史的な視点から海岸地形と地域の文化・人々の暮らし等の成り立ちを知り、沿岸域管理の原点を探求することを目的に、現地視察と意見交換会を平成29年9月30日(土)～10月1日(日)に実施した。意見交換会では、八戸工業大学工学部土木建築工学科の金子賢治教授及び東京大学佐藤慎司教授と地元の建設コンサルタント4社、委員会委員が活発な議論を行った。その結果、建設コンサルタントと研究者との役割分担や海岸の総合的な管理に関する建設コンサルタントの役割が重要であるとの結論を得た。

(3) 海岸・海洋セミナー(第9回)の開催

これまで継続してきた地域に根ざした沿岸域の総合的な管理のあり方に関するセミナーに続き、「美しく生き生きとした海岸づくり」のあり方と、それに必要なグリーンインフラの内容を知ることによって、建設コンサルタントが実施すべき役割について考えることを目的として開催した。

a) テーマ

「グリーンインフラを踏まえた海岸づくり」～地域の自然特性や人々の生活を踏まえたねばり強い海岸整備のあり方～

b) 日時:平成29年12月8日(金)13:30～17:00

c) 場所:シェーンバッハ・サボー 3F 六甲

d) 参加者数:43名

e) 講演概要

・【講演1】「地域に根ざしたグリーンインフラとしての種差海岸」(株)コサカ技研 湊 章氏
青森県や八戸市の自然・社会特性や歴史、種差海岸の現地視察や意見交換会の内容についての説明があった。その後、地元コンサルタントの現状の説明があり、技術の蓄積や継承が出来ていない等の課題や現場に近い地元コンサルの活用の有効性などについてご講演いただいた。

・【講演2】「地盤工学から見た防潮堤の機能及び地域コンサルタントへの支援」八戸工業大学工学部土木建築工学科教授 金子 賢治氏
最初に地域の建設技術者の特徴やCPD獲得や技術継承のための講習会や研修会の必要性、地域インフラに関する産官学の連携による研究を進める取組みをご紹介いただいた。その後、東日本大震災の経験から寒冷地での防潮堤の構成材料や構造形式に関する提案など、地盤工学の視点からの研究成果についてご紹介いただいた。

・【講演3】「海岸のグリーンインフラを用いた地方創世」東京大学大学院工学系研究科社会基盤学専攻教授 佐藤 慎司氏
海岸におけるグリーンインフラを題材として、海岸で生じている様々な課題を解決するために、今後必要となってくる総合的な沿岸域管理について、取り組みの方向性、課題となる事項、最新の事例等を紹介いただくとともに、海岸保全に関わる技術者に期待する役割についてご講演いただいた。

2. 次年度の活動について

これまでの活動を継続し、以下の活動を行う予定である。

- ・ 第3期海洋基本計画など、沿岸域の総合的な管理に関わる情報収集と検討課題の把握
- ・ 海岸の現地視察と意見交換会
- ・ 平成30年度海岸・海洋セミナー(第10回記念セミナー)の開催による技術情報の発信

(海岸・海洋専門委員会委員長 加藤 憲一)